

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和元年度報告)  
山口県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

県内全ての市町(19市町)において、被害防止計画が作成されている。  
このうち、萩市と阿武町においては、広域の被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

本事業においては、侵入防止柵の整備及び緊急捕獲活動の支援を中心に、捕獲機材の導入や緩衝帯整備、鳥獣被害対策を担う者の育成等に取り組んでおり、一定の成果を得ている。

3 被害防止計画の目標達成状況

4の評価対象のうち、被害防止計画の被害金額の目標達成は3協議会、被害面積の目標達成は3協議会であった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
下関市鳥獣被害防止対策協議会	下関市	H29	イノシシ シカ ヒヨドリ カラス カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 13基 狩猟免許講習会開催 射撃研修会開催 侵入防止柵 10,114m イノシシ 310頭 シカ 543頭	下関市鳥獣被害防止対策協議会	H29.8~	100%	【有害捕獲】狩猟免許取得者が増加、シカ・サルの捕獲頭数の増加 【鳥獣被害防止施設】侵入防止柵を設置した農林地では被害が軽減されている。 【緊急捕獲活動】捕獲圧を維持することにより、イノシシ・シカの生息数の増加を抑制できている。	96,500	133,806	10%	49.70	75.36	-20%	平成29年度~令和元年度の被害防止計画を達成するため、下関市鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣の捕獲及び農林地への侵入防止柵の設置等の有害鳥獣対策を実施した。 イノシシ、シカ、サルについては、被害金額・被害面積の目標を達成することはできなかった。これら3獣種による被害は、侵入防止柵設置地域では一定の抑制の効果が確認されているが、個体数の増加、生息域の拡大が進んでいるものとみられ、これまで被害の無かった地域に被害が拡大しており、このことが被害額・面積の目標を達成できなかった原因であると考えられる。特にシカに関しては、捕獲頭数を増やしているにもかかわらず、被害額は基準年度の実績値よりも上昇する結果となっており、今後、各種対策をなお一層推進することが必要であると思われる。 また、本市においては、銃による捕獲が主流となっているが、銃免許所持者の高齢化が進んでいることから、比較的若年層の多いわな免許所持者による捕獲活動を増やしていく取り組みについて検討していくこととしたい。 また、有害鳥獣対策には、捕獲と防護の取り組みを継続していくこと併せて、地元集落ごとに住民自らが自主的な取り組みを行うことが重要であることから、このことを周知する活動もより強化して行っていく。 なお、鳥類に関しては目標を順調に達成している。	ヒヨドリ、カラスの被害金額、被害面積は目標を達成している。イノシシの被害金額は減少しているものの、被害面積は増加している。シカの被害金額、被害面積はいずれも増加している。サルの被害金額、被害面積はいずれも減少しているが、目標には達していない。(カワウは数値目標なし。) イノシシ、シカ、サルについては、被害減少に結びつく加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努める必要があり、地域ぐるみの被害防止活動の取組を市内に波及させていくことが重要である。
		H30	イノシシ シカ ヒヨドリ カラス カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 2基 狩猟免許講習会開催 射撃研修会開催 侵入防止柵 36,988m イノシシ 514頭 シカ 596頭		H30.9~	100%		【有害捕獲】狩猟免許取得者が増加、シカ・サルの捕獲頭数の増加 【鳥獣被害防止施設】侵入防止柵を設置した農林地では被害が軽減されている。 【緊急捕獲活動】捕獲圧を維持することにより、イノシシ・シカの生息数の増加を抑制できている。							
		R1	イノシシ シカ ヒヨドリ カラス カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 5基 狩猟免許講習会開催 射撃研修会開催 侵入防止柵 22,802m イノシシ 496頭 シカ 642頭		R1.9~	100%		【有害捕獲】狩猟免許取得者が増加、シカ・サルの捕獲頭数の増加 【鳥獣被害防止施設】侵入防止柵を設置した農林地では被害が軽減されている。 【緊急捕獲活動】捕獲圧を維持することにより、イノシシ・シカの生息数の増加を抑制できている。							
宇部市有害鳥獣捕獲対策協議会	宇部市	H29	イノシシ シカ ノウサギ タヌキ ヌートリア アナグマ カラス ドバト ヒヨドリ スズメ カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 16基 くくりわな 77基 狩猟免許取得費補助 侵入防止柵 17,770m イノシシ 245頭 サル 25頭 シカ 5頭	宇部市有害鳥獣捕獲対策協議会	H29.4~	100%	防護柵や捕獲檻等により、農作物被害の抑制に努めているが、有害鳥獣による農業被害が上回っている。 また狩猟免許取得費補助金については、猟友会員の増員に繋がり、今後の駆除活動に貢献できる。	17,000	24,882	0%	11.10	17.02	-8%	鳥獣による農業被害については、近年減少傾向にあるものの、目標値を下回っている状況である。未だに多くの防護柵が設置されていない耕作地があり、今後の課題は多く残されている。 宇部市において課題となっているイノシシの被害対策については、これまで鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して侵入防止柵の整備や捕獲用具の購入及び捕獲活動の支援等を行っているところですが、被害の低減にかなわなかつたことから今後とも引き続き防護柵の新設や修繕に力を入れていくほか、隠れ場となる耕作放棄地の刈り払い、えさとなる収穫残さの除去及び管理放棄果樹や放置竹林の伐採等、イノシシを集落や田畑に引き寄せないための総合的な対策に取り組む必要があります。	
		H30	イノシシ シカ ノウサギ タヌキ ヌートリア アナグマ カラス ドバト ヒヨドリ スズメ カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 27基 くくりわな 61基 狩猟免許取得費補助 侵入防止柵 20,870m イノシシ 427頭 サル 59頭 シカ 1頭		H30.4~	100%		防護柵や捕獲檻等により、農作物被害の抑制に努めているが、有害鳥獣による農業被害が上回っている。 また狩猟免許取得費補助金については、猟友会員の増員に繋がり、今後の駆除活動に貢献できる。							
		R1	イノシシ シカ ノウサギ タヌキ ヌートリア アナグマ カラス ドバト ヒヨドリ スズメ カワウ	有害捕獲 ICT等新技術の活用 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 16基 小型捕獲檻 10基 くくりわな 40基 狩猟免許取得費補助 獣サイズ識別センサー 9基 長距離無線式/トロールシステム 観機1基、子機9基 侵入防止柵 12,090m イノシシ 320頭 サル 39頭 シカ 5頭		R1.4~	100%		防護柵や捕獲檻、ICT機器を活用したスマート捕獲等により農作物被害の抑制に努めているが、有害鳥獣による農業被害が上回っている。 また狩猟免許取得費補助金については、猟友会員の増員に繋がり、今後の駆除活動に貢献できる。							



事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
		R1	イノシシ サル タヌキ キツネ アライグマ ヌートリア アライグマ ハクビシン カラス ヒヨドリ スズメ ハト類 カモ類 サギ類 ワカウ マコ	有害捕獲 被害防除 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	イノシシ用箱わな 31基 小型箱わな 36基 サル大型囲いわな 2基 カワウ等追い払い 緩衝帯整備 侵入防止柵 43,200m イノシシ 532頭 シカ 22頭 サル 344頭 アライグマ 23頭 ヌートリア 1頭		R2.4~	100%	柵設置農地における被害軽減、捕獲頭数の増加									
岩国市鳥獣被害防止対策協議会	岩国市	H29	イノシシ サル タヌキ カラス カワウ シカ	有害捕獲 緊急捕獲活動	箱わな 20基 イノシシ 616頭	岩国市鳥獣被害防止対策協議会	—	—	猟友会員の有害捕獲に対するモチベーションが上がり、全体的に有害鳥獣の捕獲頭数が増加したことで被害額の減少にもつながっている。	30,000	32,382	71%	24.00	20.70	150%	岩国市は近年シカの出発情報があるものの、主な鳥獣被害はイノシシとサルによるものである。被害防止の取り組みの結果、基準年と比べ被害額・被害面積ともに減少したものの、被害額は目標に届かなかったことから、今後引き続き対策を強化していく必要があります。サル被害のある地域については、イノシシとサルの両方に対応できるおじろ用心棒を施工する等の対策や、追い払い活動及び管理放棄果樹の除去を中心に考え、追い払い効果の薄い慣れた群は捕獲するといったメリハリをつけることで、より効果が上げられると思います。	全体の被害金額、被害面積は減少しており、被害面積は目標を達成している。(鳥獣別の数値目標なし)。イノシシ、サルについては、被害減少に結びつく加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努める必要があり、地域ぐるみの被害防止活動の取組を市内に波及させていくことが重要である。	
		H30	イノシシ サル タヌキ カラス カワウ シカ	緊急捕獲活動	イノシシ 915頭		—	—	猟友会員の有害捕獲に対するモチベーションが上がり、全体的に有害鳥獣の捕獲頭数が増加したことで被害額の減少にもつながっている。									
		R1	イノシシ サル タヌキ カラス カワウ シカ	緊急捕獲活動	イノシシ 693頭		—	—	猟友会員の有害捕獲に対するモチベーションが上がり、全体的に有害鳥獣の捕獲頭数が増加したことで被害額の減少にもつながっている。									
光市有害鳥獣捕獲対策協議会	光市	H29	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	有害捕獲	サル大型囲いわな 1基 箱わな 6基	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	H29.10~	100%	サルの群れの重点的に捕獲	7,454	9,852	25%	6.00	7.47	43%	光市において課題となっているイノシシの被害対策については捕獲隊の問題もありますが、イノシシ被害の状況を分析し、侵入防止柵の新設や修繕、隠れ場となる耕作放棄地の刈り払い、えさとなる収穫残さの除去及び管理放棄果樹や放置竹林の伐採等、イノシシを集落や田畑に引き寄せないための総合的な対策に取り組む必要があります。	サルの被害金額、被害面積は目標を達成している。イノシシの被害金額、被害面積はいずれも減少しているが、目標には達していない。(カラス、カワウは数値目標なし)。イノシシについては、被害減少に結びつく加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努める必要があり、地域ぐるみの被害防止活動の取組を市内に波及させていくことが重要である。	
		H30	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 2,125m		H30.11~	100%	防護柵の設置によるイノシシ等の農業被害の軽減									
		R1	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 665m		R2.3~	100%	防護柵の設置によるイノシシ等の農業被害の軽減									
長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	長門市	H29	イノシシ ニホンジカ サル	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	サル大型捕獲柵 1基 侵入防止柵 23,997m イノシシ 347頭 シカ 465頭 サル 25頭	長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	H29.11~ H29.8~	100%	【有害捕獲】地域ぐるみの活動の一助として導入し、地域の被害防止に係る意識の向上につながった。 【鳥獣被害防止施設】受益農家が3戸以上であることが採択要件としてあるため、地域として一体的に取り組むことができ、被害防止効果も期待できる。さらに防護柵を利用した捕獲により効果的な捕獲につながった。 【緊急捕獲】捕獲隊による組織的に捕獲活動を実施することにより被害の拡大防止につながった。	35,366	23,969	175%	26.00	22.00	133%	長門市は、一部地域的な被害の増減があるものの全体的にイノシシ、シカ、サルの被害がある地域です。鳥獣被害防止施設の導入と緊急捕獲活動により基準年と比べ被害額が半減しており施策の効果は上がっていると言えますが、一方で未だ2,000万円以上の被害があることから、今後も引き続き施設整備と既存施設の維持管理に力を入れていく必要があります。なお、サル被害対策については、これまでサル用大型捕獲柵の設置が行われていますが、それに加えておじろ用心棒等のサル侵入防止柵や、集落ぐるみの追い払い及び作物残渣の除去も有効です。		
		H30	イノシシ ニホンジカ サル	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	サル大型捕獲柵 1基 侵入防止柵 12,781m イノシシ 452頭 シカ 492頭 サル 44頭		H30.8~ H30.10~	100%	【有害捕獲】地域ぐるみの活動の一助として導入し、地域の被害防止に係る意識の向上につながった。 【鳥獣被害防止施設】受益農家が3戸以上であることが採択要件としてあるため、地域として一体的に取り組むことができ、被害防止効果も期待できる。さらに防護柵を利用した捕獲により効果的な捕獲につながった。 【緊急捕獲】捕獲隊による組織的に捕獲活動を実施することにより被害の拡大防止につながった。									
		R1	イノシシ ニホンジカ サル	有害捕獲 緊急捕獲活動	サル大型捕獲柵 1基 イノシシ 413頭 シカ 650頭 サル 45頭		R1.9~	100%	【有害捕獲】地域ぐるみの活動の一助として導入し、地域の被害防止に係る意識の向上につながった。 【鳥獣被害防止施設】受益農家が3戸以上であることが採択要件としてあるため、地域として一体的に取り組むことができ、被害防止効果も期待できる。さらに防護柵を利用した捕獲により効果的な捕獲につながった。 【緊急捕獲】捕獲隊による組織的に捕獲活動を実施することにより被害の拡大防止につながった。									

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
柳井市有害鳥獣捕獲対策協議会	柳井市	H29	イノシシ サル タヌキ アナグマ カラス ヒヨドリ カワウ	有害捕獲 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	箱わな 8基 サル大型囲いわな 1基 侵入防止柵 2,960m イノシシ 768頭 サル 13頭 シカ 1頭	柳井市有害鳥獣捕獲対策協議会	H29.9~ H29.8~ H30.2~	100%	捕獲・防護効果により、農作物への被害が減少している。	10,419	13,149	42%	5.86	8.39	17%	イノシシの捕獲活動の意欲高揚やサル捕獲用大型囲い設置、また電気柵等による被害防止対策を進めた結果、農作物の被害はH29年度のピーク時よりは減少しているものの、出没や被害が山間部の農地から集落や市街地、半島部や離島へと拡大、捕獲者の高齢化や減少等により、農作物被害を当初の目標とするところまで軽減するに至っていない。	柳井市において課題となっているイノシシの被害対策については、これまで鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して侵入防止柵の整備や捕獲用具の購入及び捕獲活動の支援等を行っているところですが、被害の低減にかなわなくなっていることから今後とも引き続き防護柵の新設や修繕に力を入れていくほか、隠れ場となる耕作放棄地の刈り払い、えさとなる収穫残さの除去及び管理放棄果樹や放置竹林の伐採等、イノシシを集落や田畑に引き寄せないための総合的な対策に取り組む必要があります。	シカ、タヌキの被害金額、被害面積は目標を達成している。サル、カラス、ヒヨドリの被害金額は目標を達成し、被害面積は減少しているが目標には達していない。イノシシの被害金額、被害面積は減少しているが、目標には達していない。(アナグマ、カワウは数値目標なし。)
		H30	イノシシ サル シカ タヌキ アナグマ カラス ヒヨドリ カワウ	有害捕獲 緊急捕獲活動	箱わな 4基 サル大型囲いわな 1基 イノシシ 919頭 サル 12頭 シカ 1頭		H30.10~ H30.8~	100%	捕獲・防護効果により、農作物への被害が減少している。									
		R1	イノシシ サル シカ タヌキ アナグマ カラス ヒヨドリ カワウ	有害捕獲 緊急捕獲活動	箱わな 20基 イノシシ 709頭 サル 18頭		R1.9~	100%	捕獲・防護効果により、農作物への被害が減少している。									
周南市有害鳥獣捕獲対策協議会	周南市	H29	イノシシ ニホンザル カラス ノウサギ カワウ ハウビシ タヌキ アナグマ シカ アライグマ イタチ テン チョウセンイタチ	有害捕獲 緊急捕獲活動	大型獣用箱わな 6基 サル大型囲いわな 1基 止め刺し器具 1セット アワガクロープ 1セット イノシシ 520頭 シカ 2頭 ニホンザル 25頭 アナグマ 8頭 タヌキ 27頭 イタチ 2頭 カワウ 9羽 カラス 100羽	周南市有害鳥獣捕獲対策協議会	H30.3~	100%	捕獲活動の推進	20,013	24,542	-28%	13.19	15.12	17%	基準年度に対して被害面積は若干減少したが、被害金額は増加した。 捕獲対策として、交付金を活用した捕獲機材の整備や鳥獣被害防止施設周辺での効果的な捕獲活動に取り組んだ。特に、サル被害対策として、囲いわなを設置し捕獲活動を積極的に進めている。今後、国、県及び近隣市町と連携した取組を実施し、被害防止対策を推進する。	主要な有害鳥獣である、イノシシ、ニホンザル、カラスは被害金額は増加しているが、被害面積は減少しているため、引き続き、各種の鳥獣対策に取り組んで欲しい。(その他鳥獣類は数値目標なし。)	ノウサギ、タヌキの被害金額、被害面積は目標を達成している。イノシシ、サル、カラスの被害面積は減少しているものの、被害金額は増加している。(その他鳥獣類は数値目標なし。)
		H30	イノシシ ニホンザル カラス ノウサギ カワウ ハウビシ タヌキ アナグマ シカ アライグマ イタチ テン チョウセンイタチ	有害捕獲 緊急捕獲活動	大型獣用箱わな 4基 小型獣用箱わな 7基 サル囲いわな 1基 イノシシ 821頭 ニホンザル 22頭 アナグマ 21頭 タヌキ 23頭 イタチ 2頭 テン 2頭 カワウ 3羽 カラス 41羽		H31.3~	100%	捕獲活動の推進									
		R1	イノシシ ニホンザル カラス ノウサギ カワウ ハウビシ タヌキ アナグマ シカ アライグマ イタチ テン チョウセンイタチ ヌートリア	有害捕獲 緊急捕獲活動	大型獣用箱わな 4基 小型獣用箱わな 13基 サル囲いわな 1基 イノシシ 512頭 シカ 1頭 ニホンザル 25頭 アナグマ 6頭 タヌキ 17頭 テン 1頭 ヌートリア 15頭 カラス 18羽		R2.2~	100%	捕獲活動の推進									
山陽小野田市有害鳥獣対策協議会	山陽小野田市	H29	イノシシ カラス ヒヨドリ シカ サル	緊急捕獲活動	イノシシ 95頭 シカ 3頭	山陽小野田市有害鳥獣対策協議会	-	-	イノシシの頭数減少により農業被害が軽減された。	9,214	10,842	59%	7.03	13.64	-11%	イノシシの被害に関して、被害額においては目標をある程度達成できたが、反面、その他の鳥獣に類しては被害が増加しており目標を達成できなかった。 捕獲奨励金事業等により捕獲頭数を上げ、被害を軽減させるとともに市内猟友会とも連携をすることで被害の防止、軽減を図る必要がある。	イノシシの被害について、被害額は基準年よりも減少したものの、目標には届きませんでした。カラス、ヒヨドリ、シカの被害金額が増加した結果、合計で目標達成率の70%を満たせませんでした。 被害の大半を占めるイノシシについて、より一層の対策が必要です。イノシシは捕獲数を増やすだけでなく、被害状況を確認しながら、えさを人里に依存したより加害性の強い個体を捕獲することによって、効果的に被害を減らすことができると思います。	イノシシ、サルは被害金額は減少しているものの、被害面積は増加している。カラス、ヒヨドリについては、防鳥ネット等による対策を検討する必要がある。 イノシシ、シカ、サルについては、被害減少に結びつく加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努める必要があり、地域ぐるみの被害防止活動の取組を市内に波及させていくことが重要である。
		H30	イノシシ カラス ヒヨドリ シカ サル	緊急捕獲活動	イノシシ 117頭 シカ 5頭		-	-	イノシシの頭数減少により農業被害が軽減された。									
		R1	イノシシ カラス ヒヨドリ シカ サル	緊急捕獲活動	イノシシ 99頭 シカ 6頭		-	-	イノシシの頭数減少により農業被害が軽減された。									



事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
山口県		R1	イノシシ シカ サル等	新技術実証・普及活 動	実証4課題	—	—	—	サル追い払いシステムの実証、ドローンを活用した鳥獣の追 い払い技術の実証、施設栽培における獣類被害防止方法 の確立、LPWAを活用した電気柵及び捕獲わなの総合監視 システムの実証	—	—	—	—	—	—	実証成果について、市町や関係団体等に情報 提供するとともに、現地適用が可能な技術につ いては、今後、普及に努めたい。	ドローンによる追い払い効果は限定的であ り、他の方法も検討されたい。	—

## 5 都道府県による総合的評価

山口県全体の被害額は、平成22年度の8億円をピークに減少傾向にあるが、令和元年度の被害金額は4.4億円であり依然として高い水準にある。このため、平成29年度から地域ぐるみの被害防止活動をモデル的に実施しており、この取組が成果を上げていることから、今後全県に波及させていく必要がある。